

第3回（仮称）さっぽろ未来創生プラン策定検討有識者会議 議事録

日時：平成27年11月9日（月）午後2時から午後3時30分まで

場所：札幌すみれホテル 3階 ヴィオレ（札幌市中央区北1条西2丁目）

出席：内田座長、小林副座長、阿部委員、上杉委員、近江委員、梶井委員、木村委員、杉岡委員、堰八委員、寺澤委員、原委員、平野委員

事務局：町田副市長、岸市長政策室長、中田政策企画部長、沖本企画課長

<議事内容>

1. 開会

【内田座長】

時間となりましたので、第3回（仮称）さっぽろ未来創生プラン策定検討有識者会議を開催いたします。本日もよろしくお願いいたします。

この会議は、全3回を予定し、これまで7月23日と8月31日の2回にわたりました。「さっぽろ未来創生プラン」について、皆さんと議論してまいりました。

3回目となります本日の会議では、「さっぽろ未来創生プラン」の最終的な案を議論いたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局から連絡事項がございますので、中田部長からご説明をお願いします。

【事務局（中田政策企画部長）】

政策企画部長の中田でございます。

本日の会議は、委員の皆様全員にご出席いただいております。

本日の議題は、内田座長からもご説明がありましたとおり、さっぽろ未来創生プラン（案）についてご意見をいただきたいと思っております。

なお、本日ご説明させていただきますプラン（案）につきましても、この会議終了後、今月下旬に市民の皆さんに広く意見をお聞きするパブリックコメントを実施いたします。

また、若い方からの意見を少しでも反映させたいということで、高校生を対象にした出前講座、大学生や20代の若手社員を対象とした若者向けのワークショップを開催する予定としております。

これらの市民参加の取組を実施いたしまして、来年1月下旬にはプランの策定を完了させ、公表したいと考えております。

本日もどうぞよろしくお願いいたします。

2. さっぽろ未来創生プラン（案）について

【内田座長】

それでは、早速、議事に入らせていただきたいと思います。

本日の終了予定時刻は、15時30分を予定していますので、ご配慮とご協力をお願いいたします。

それでは、資料1から資料3について、事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局（中田政策企画部長）】

[中田部長より資料の説明]

3. 委員による意見交換

【内田座長】

どうもありがとうございました。

今、事務局から説明がありました資料1から資料3につきまして、これから各委員の皆さんからご意見を伺いたいと思います。

お1人5分程度でご意見をお願いしたいと思います。

それでは、阿部委員からお願いいたします。

【阿部委員】

株式会社M a m m y P r o代表の阿部でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私からは、資料1－(3)の右側に記載されております基本目標2「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」について、いくつかの意見を述べさせていただきたいと思います。

まず、(1)の「①結婚の希望をかなえる支援」に書いてあります「結婚に関する情報提供の充実」と「男女の出会いの場の創出」についてです。

たくさんの民間事業者で結婚に関する発信の強化が既にされていると感じますし、男女の出会いの場の創出に関しましても、民間で婚活パーティーを既に行っていると認識しております。

そこで、札幌市で充実させていただきたいと思いますのは、若い方が結婚や出産、子育てに関してのイメージが沸くようなことです。

例えば、私のような結婚して仕事をしているようなお母さんが札幌市内にたくさんいらっしゃると思うのですけれども、そういう方の現状などが伝わるようなセミナーを開催することなどです。

また、「ライフプランの実現支援」と書かれていますが、ただライフプランを書きなさいと言っても具体的なイメージが湧きにくいと思いますから、具体的なライフプランが構築できるように、子育てをしている方のお話が聞けるような場を作る

など、民間ではなかなかできないようなことをぜひやっていただきたいと思います。

次に、(1)の「③子育て支援の充実」に関しましては、「多様な保育サービスの提供」とあり、アクションのほうでも延長保育や夜間保育などをご検討いただけるということで、非常に良いと思っております。

札幌市の4月の発表では、待機児童が70人程度と聞いておりまして、今後は400人程度の枠を増やすと聞いているのですけれども、実際にこれから働きたいと考えている主婦には、その情報が残念ながら行き届いておりません。

働きたいと思っても、どうせ保育園が空いていないからというような声を多々耳にしますので、札幌市ではこういうことを考えておりますという広報をできるだけ早目をお願いしたいと思います。

それから、(3)の「子育てを支える社会の形成」の「①子育てしながら働ける環境の整備」に書いております「ワーク・ライフ・バランスの推進」と「女性の活躍推進」についてです。

私自身もさまざまな企業の人事の方や経営者とお話しさせていただきますけれども、現在でも企業では残業するのが当たり前というところも多く、子育てをしているお母さんたちは、子どもが熱を出して、会社を休んだり早退すると会社の人から白い目で見られるという声をまだまだ聞いております。

また、ここに書いてあるワーク・ライフ・バランスとは、どうしても子育てをしている方を対象に書かれているような気がするのです。

社会全体や札幌市全体の課題として、私が日頃から感じておりますのは、経営陣や管理職の方の理解が非常に少ないということですので、これは管理職本人からも聞いております。

今、世の中では、「育ボス」という言葉がありますように、育児をしているファミリー層を支える管理職というようなことですので、そういった意味での施策も今後考えていただければと思います。

それから、先ほど部長から、このアクションが完成したときには高校生や大学生に対して、いろいろな事業を行うということを考えていらっしゃるということでしたけれども、ぜひとも子育てをしているファミリーとのお話し合いの場も設けていただけると非常にいいかと思いました。

【内田座長】

どうもありがとうございました。

それでは、上杉委員、お願いいたします。

【上杉委員】

北海道銀行の上杉でございます。

全体像については理解できましたが、2点ほど追加していただきたいことがありますので、それについてお話ししたいと思います。

まず、資料1-(3)の基本目標1の(2)の「札幌市産業を支える基盤づくり【業種横断的】」の「③新たな企業の誘致・創出」と「④国内外への販路拡大の推進」についてです。

「③新たな企業の誘致・創出」は、創業しやすい環境づくりということであり、「④国内外への販路拡大の推進」は、食関連企業の海外展開の推進のことを指します。

これについて資料2で詳しく中身を見ますと、39ページに出ており、「創業しやすい環境づくり」とございます。

この2行目に、「起業講座の開催や起業家の表彰など創業マインドの向上に向けた取組や、販路拡大やマーケティングなど総合的な経営支援を行う」とあります。

実は、私ども銀行でも創業支援を目的とした塾を開講しております。これは既にプラットフォーム化しておりまして、日本政策金融公庫、北海道中小企業総合支援センターに協力いただいております。今後はさらにいろいろな団体が後援として加わっていきますので、既存のプラットフォームについて、市として後援する、または、何らかの支援をするなど、サポートを考えていただければと思います。

もう一つは、その下の「④国内外の販路拡大の推進」の「食関連企業の海外展開の推進」です。

3行目に、「道内商社を活用した中国やASEANへの展開を支援します」とありますけれども、北海道から一番近い海外は極東ロシアでございます。

ここについて盛んにいろいろなアプローチをしており、民間ベースでもそういう動きが既にごございます。

よって、ここでは、中国、ASEANなど、アジアだけではなく、極東ロシアも加えられたらいかかと思案したいと思っております。

【内田座長】

どうもありがとうございました。

それでは、近江委員、お願いいたします。

【近江委員】

北洋銀行の近江でございます。

先ほど事務局からもお話がありました人口の自然動態、社会動態については、資料1-(2)に出ておりますとおり、未婚者の結婚への最大の障害は、結婚後の生活を維持していくための資金となっております。

また、札幌市は、全国と比べて予定子ども数が少なくなっている理由別割合が載っておりまして、これは収入が不安定ということが理由となっております。

さらに、学生アンケート調査から、社会動態にも関わりますけれども、市内の学生は地元就職志向が強いかかわらず、実際には道外が就職地となる場合も多く、希望がかなえられていないということです。

こういう現状からしまして、お示しいただいておりますとおり、総合戦略におきましては、「安定した雇用を生み出す」と「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」という2本の基本目標を必達することが大切になってくると思います。

今、上杉委員からもお話がありましたとおり、私どもとしても、今まで以上に当該戦略の実行に協力してまいりたいと考えております。

特に、観光振興、食産業、中小企業振興、国内外への販路拡大について支援できるかと思っております。

観光振興につきましては、総合戦略にもある外国人観光客の利便性向上のためのインフラ整備の支援や首都圏観光プロモーションなど、また、食産業の分野では、6次産業化ファンドによる資金サポート、商品ブラッシュアップ支援など、さらに、中小企業振興につきましては、創業ブランド化推進、ものづくり産業の振興などがあります。

また、国内外へ向けては、今、上杉委員からもお話がありましたけれども、国内外の商談会の活用や、私どもの中国、ASEAN拠点を主体としたビジネスマッチングの推進ということで、最終的にお示しされておりますオール札幌の取組の一翼を担っていただけるよう取り組んで、この基本目標の必達に協力してまいりたいと思っております。

【内田座長】

どうもありがとうございます。

それでは、梶井委員、お願いいたします。

【梶井委員】

私からは、資料1-(4)の「未来創生アクション」についてです。

アクション2「まちの魅力アップ」のところに、「文化芸術による魅力向上」とありますが、そのことをご提案を申し上げたいと思います。

札幌市では既に考慮されていると思いますが、現在、創成1.1.1区では「札幌市民交流プラザ」の工事が進んでいます。

そこには、劇場だけではなく、「札幌文化芸術交流センター」というものが造られ、市民参加による文化芸術都市の再構築がうたわれております。

そういう意味では、同センターの活用をぜひ取り上げていただきたいと思っております。同センターでは、市民参加をうたっておりますので、大変重要かと思っております。

もう1点は、アクション5「人材の育成」についてです。

資料2の51ページでKPIが出ております。

「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦をしている子どもの割合」を高める、そして、「将来の夢や目標をもっている子どもの割合」を高めていくということと数値目標が設けられておりますけれども、このような子どもの意識を醸成することの数値目標は、どういう具体策を持って高めていくのが難しいところではないか

と思います。

「札幌市まちづくり戦略ビジョン」では、区単位もしくはまちセン単位のコミュニティ強化がうたわれているのですが、コミュニティ機能を強化、再生することで、失敗を恐れなくて挑戦する、もしくは目標を持っていくという意識を醸成できるのではないかと考えております。

というのは、子どもたちは、いろいろな人に自分の人生が支えられているのだと実感することが可能になるからで、そのことによって失敗に強い子どもが醸成されるのではないかと期待しているのです。

資料2全体においては、コミュニティ機能やまちセン、区協議会などには余り触れられておりませんが、「札幌市まちづくり戦略ビジョン」にはかなり重点化されて書かれておりましたので、今後は実効性を担保する上で考えていただければと思っております。

【内田座長】

どうもありがとうございます。

それでは、木村委員、お願いいたします。

【木村委員】

行政書士法人エニシアの木村でございます。よろしくお願いいたします。

私からは、資料1-(4)の左下のアクション4「安心子育て」の経済的負担の軽減についてです。

「子ども医療費助成の拡大」や「保育料無料の対象拡大」により、3歳未満の第2子まで無料にされるというのは大変思い切った施策を打ち出されたかと思っております。

保育料が第2子から無料ということですが、保育料と同様に大変大きな問題として、第2子以降が同じ保育園に通えるかどうかが大変重要だと思います。

私は、年長と年少とゼロ歳の3人の子が認可保育園にお世話になっておまして、幸いにも、全員が同じ保育所に通っているのですが、ほかの保育園では、下の子が同じ保育園に入れず、別々のところに通っているというような方も結構いらっしゃると思います。

第2子以降について、私の子どもが通っている保育園では、兄弟が生まれる出産予定と職場復帰の予定がたちましたら、保育園で兄弟の枠を押さえてくれるのです。

ですから、年度の途中など、通常ですとなかなか入りにくい時期でもすんなりと受け入れていただけるのです。

このような配慮がありまして、大変助かっているのですが、市内の認可保育園全てにおいて実施されているわけではないようでして、あくまで各保育園での対応ということのようでございます。

兄弟を出産するときに保育園に確実に入れるかどうかは、兄弟をつくるかどうか

のマインドに大変関わってくる点だと思しますので、現在の保育園による個別対応ではなく、市として第2子以降の枠を確保する配慮をしていただければと思います。

実際に、私の通っている保育園では、兄弟のいる子が大変多いのです。私の長男は年長でして、そのクラスは20人ほどいますが、4分の3ぐらいは兄弟がいる子どもたちです。3人以上の兄弟の子どもも4分の1ぐらいおまして、兄弟のいる子どもの人数が多いと思っております。

これは裏づけも何もない私の仮説であるのですけれども、兄弟の枠を保育園が押さえてくれるかどうかで、出生数が変わってくるのではないかと考えております。

次に、札幌市の希望出生率が1.5ということが資料1-(3)の一番上のところに出ております。

私の感想としましては、希望出生率1.5という数字自体がちょっと低い感じがします。

先ほど、阿部委員からは、子育てして働いてというライフプランの構築を助けるイメージができるような施策をというお話がありましたけれども、希望出生率自体を上げていく、子どもを欲しいと思う、1人ではなく、兄弟も欲しいと思えるような施策が必要なのではないかと思えます。

一部の学校では現在行われているようですけれども、赤ちゃん訪問というものがあります。これは、小学生や中学生、高校生などのところに子育てのお母さんが赤ちゃんを連れて訪問して、赤ちゃんをだっこしてもらおうという取組です。

将来のことを考えている子どもたちが赤ちゃんに触れたり、お母さんたちのお話を聞いたりすることで、自分も将来は子どもをというイメージができるようですので、このような施策を推進していただけたらと思います。

【内田座長】

どうもありがとうございました。

それでは、杉岡委員、お願いいたします。

【杉岡委員】

私からは、全体の柱をつなぐ考え方を考慮するためにご検討いただければと思っていることとお話しします。

提案の柱はそれぞれの事業に関する施策化と予算化が前提になっているわけですが、仕組の問題が一番大きな決め手になるのではないかと考えております。

それはどういうことかといいますと、例えば子育てがしやすい社会にしていくためにどうすればいいのか、雇用をどう支えていくかという柱となる1つ1つの問題を考える際に、札幌市民が保有している有形無形の資産をどういうふうを活用するかという点を全体的な大きな柱に捉えてそれぞれの柱をつないでいくというスタンスが必要なのではないかと考えております。

それは、ここでは余り触れられておりませんが、高齢者が抱えている問題と子育て

てや雇用問題を抱える若い人たちへの具体的な施策にどう生かすかということです。

私が大学3年目の学生に聞くと、結婚もしたいし、楽しい家庭をつくりたいけれども、家庭をつくる大体の目安としている30歳ぐらいまでにどういう目標を立てて生活していけばいいのかが全くわからないので、それを何とか知りたいという声がありました。

昔の若者は、生活していけば大抵は何とかなる、結婚すれば何とかなる、卒業すれば何とかなるという感覚で人生を進んできた、そして大抵の人はなんとかなっていたと思うのですが、何とかならないのではないかと今の人たちは不安を感じています。

それだけ現実が厳しくなっているということで、若い人たちに雇用の拡大を簡単に言っても、そんなにそれぞれが希望する仕事を用意できるわけではありません。

ただ、収入がそれほど多くなくても生活していける、あるいは、何とかなるという仕組を若い人たちに提供することは重要だと思っております。

先ほどのご意見のなかで、収入の問題が子育てには結構大きなネックになっているというご指摘があったわけですが、これは子育てをするにあたっては安心して住める住宅を確保することや、子どもの教育や習い事などいろいろなことを体験させるための機会に費用がかかってくるからです。

住宅の問題と各種学習支援を含めた体験的な機会のサービスを豊富に用意することが重要になると思います。

札幌市においては、65歳以上人口が毎年35,000人以上増えておりますが、かなり多くの人たちが持家を持って生活しているわけです。そこで、持家の高齢者の人たちの中には住み替えを考える人たちもいますので、若い人たちの住宅の確保にどう結びつけられるのかということを考えていくことが必要かと思えます。

また、子どもの教育や職業生活での体験等を活かして、若い人たちに対するサポートを高齢者に役割を担ってもらうことが可能なのではないかと思います。そうすることで、高齢者の人たちの健康寿命の延長という効果も含め、仕組を工夫することによって予算を余りかけずに実現の可能性を期待できるのではないかと思います。

また、高齢者、つまり退職した人たちの活用をうまく図ることによって、労働力の確保、あるいは、健康寿命の確立などをより長期に位置づけることで札幌市の社会保障支出を抑制することも可能になりますので、高齢者の持っている資産、経験、技術を若い人たちの機会を保障していくための資源としてうまく機能させるような組立てについて、それぞれの施策を別々で進めるのではなく、現存する有形無形の社会資産を活用するような仕組の中に施策の推進を図っていただければと思っております。

【内田座長】

どうもありがとうございました。

それでは、堰八委員、お願いいたします。

【堰八委員】

札幌商工会議所から出席させていただいております堰八です。

まず、全体的な感想を申し上げますと、施策や考え方が非常に整理されており、また、いろいろと網羅されて、良い内容になってきたと思います。

一つは、人口の問題に関する考察です。

いろいろと記載されていますとおり、突き詰めて言えば、全国的にも、札幌や北海道でも人口が減っていきます。それを食い止めるにはどうしたらいいのでしょうかということですが、結婚されない女性の方の率が高く、出生率も全国レベルではかなり低いということが大きな要因になっているということです。

そして、その理由は何ですかとアンケートで問うと、安定した収入が足りないということが上がっており、これは男性も女性も同じです。

特に女性は健康の問題など、さまざまな要因がありますが、意外に思うのは結婚式の費用と書かれていることです。

これは、意外だなと思いました。今は式を挙げない人も多いのに、それが男女ともに大きな理由になっているのは不思議に思います。ただし、この問題は解決できるという気がいたしております。

ただ、大事なことは、本編の32ページの基本目標の設定のところですよ。

今申し上げたようなことも若干書いてありますけれども、大きな問題として市が述べられる低い合計特殊出生率と道外への転出超過を改善するためには、安定した雇用を生み出すことと書いてあります。

これは確かにそうなのでしょうけれども、鶏が先か、卵が先という話で、安定した雇用を生み出す前に働ける環境づくりをつくることも必要かと思っており、両方を同時並行的に進めなければならないだろうと思います。

ですから、雇用を生み出すことに絞ると、そうなのかな、少し違うのではないのかなと思ってしまうのです。

また、私ども商工会議所として一番関心の高い雇用を生み出す、いわゆる産業の活性化ということについては、資料2の34ページからの分野別、また、38ページからの業種横断的というところにまとめられておりますけれども、これをつぶさに読んでいきますと、具体的に市で「このようにやります」と言っているところと、かなり抽象的なところが入り交ざっているのです。

34ページを見ると、「外国人観光客の受入体制整備」とあります。例えば、「北海道と連携し、新千歳空港への海外直行便誘致に取り組み、海外航空会社等にトップセールス団を派遣します」とあり、これは具体的です。

次の「MICE誘致の強化」です。「新たなMICE施設の整備について検討します」とあり、これは既に札幌市で検討され、報道もされておりますので、具体的

です。

次の「スポーツイベントの積極的な誘致・開催」についても具体的です。

しかし、次の「札幌の魅力資源の積極活用」についてですが、「集客交流拠点や円山動物園の魅力を向上に取り組みます」とありますが、やや具体性に欠ける印象があります。

また、具体性に欠けるものとしては、「②食の魅力を生かした産業の高度化」以降の施策です。本文では「支援します」という言葉が多用されていますが、何をやって支援しますというのが、非常に難しいのです。

例えば、「6次産業の活性化」です。「道内の一次産業者と市内の二・三次産業者が連携した商品開発を支援します」とあります。札幌市として支援するということですが、何をするのかという具体策が見えません。

次の「食関連企業の海外展開の推進」では、「道内商社を活用した中国やASEANへの展開を支援します」とあります。また、「札幌に集積する外食産業等の海外展開を支援し、経営基盤の強化と「食」を始めとする札幌の認知度向上を図ります」とありますが、これはどうやってするのでしょうか。

次の「商品の安全性・製造品質の向上」では、「品質管理認定制度の取得を支援します」とあります。ここが産業振興のところで肝になるところなのです。ただ、「支援します」と言っていたことは非常に重要なことだと思うのですが、具体的に札幌市の政策としてどういった支援をするのかが見えてこないのです。

当然、これから細かい政策をこれにリンクさせてつくるのだということだと思いますし、今の段階での心意気はよくわかるのですが、ここは重要なところなのです。

このように、具体的に市として何ができるのかが見えないという感想を持ちました。

【内田座長】

どうもありがとうございました。

それでは、寺澤委員、お願いいたします。

【寺澤委員】

寺澤です。

最初に質問を一つ二つさせていただきます。

出生率の話が出ていまして、札幌が2030年で1.5ですね。これは国の長期ビジョンだと1.8で、道庁でも札幌を除く全体ではたしか1.8としております。

このように、2030年が1.5、2040年が1.8と、札幌市では10年遅れになっておりますけれども、札幌市が極端に低いことを踏まえて、こういうふうに関国の長期ビジョンより低い数値に設定したという理解でよろしいのでしょうか。

また、具体的な事業との絡みですが、資料の後についている参考事業の一覧につ

いてです。

これは、先日に発表になった中期実施計画「札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2015」の事業ということですね。

今回まとめている未来創生プランと必ずしも裏表ではないのだけれども、このプランでやるようなことで、中期実施計画の事業に入っているものはこういうものですというものを並べたという理解でよろしいのでしょうか。

まず、この二つについて教えてください。

【事務局（中田政策企画部長）】

まず、出生率の関係です。

国では、プランをつくるに当たり、何人子どもを産みたいですかというアンケート調査をやり、その結果を取りまとめておりまして、その数字が希望出生率となりまして、全国ベースでは1.8でした。

私どもでも札幌市内の方を対象に同じような調査を行っておりまして、その結果が1.5でした。

今、国の現在の出生率1.4ぐらいいに対して、札幌市の現在の出生率が1.14ということで、非常に低くなっており、また、実際に希望出生率を調べると、国の1.8に対して、札幌市は1.5と低目だったことがございまして、まずは1.5の希望出生率を目指していこうといたしまして、国と比較すると10年遅れとなっているところです。

それから、先ほど堰八委員からもお話があったことですが、本編の文章が具体的ではないものがあるなど、書き方に温度差があることは確かにおっしゃるとおりで、否めないところです。

しかし、何をやるかについては、後ろに事業一覧として、支援の内容についても記載させていただいておりますので、こちらも参考にしてご覧いただければと思います。

それから、寺澤委員からお話がありました中期実施計画である「札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2015」との関係についてです。

そもそも、中期実施計画を策定するに当たり、各局で事業を組み立ててもらいますけれども、その際に人口減少対策、地方創生に資する事業を作ってくださいとお願いし、それに基づいたものとなっております。

これらは同時期につくることでスタートしておりますので、連動性を持たせております。

ですから、中期実施計画にあるものから持ってきて並べかえましてということではなく、両方のプランに位置づけられるものを各局に作ってもらうようにしております。

【寺澤委員】

冒頭にアンケートでやったというお話がありましたけれども、それに基づいて作

ったものだということですね。

【事務局（中田政策企画部長）】

はい。

【寺澤委員】

それでは、別の個別の政策の柱についてお話をしたいと思います。

本編資料の第4部の未来創生アクションについてです。

これは今までの会議で、夢がない、メッセージ性がないということを踏まえてこういうものをつくられたと思いますが、そのご努力を評価したいと思います。

ただ、せっかくこういうものを作って、未来創生プランをこういうイメージで作っているのだ、あるいは、こういうメッセージ性を込めたというのに、総合戦略編の第3部としてしまうと、埋没してしまい、なかなか目立たないのです。

ですから、第3部という仕立てではなく、独立させる、あるいは、表現を多少変えればできるかもしれませんけれども、冒頭に持ってきたほうがアピール性はあるのかなという気がいたしました。

これは書き方の問題ですが、最終的には今お話ししたような最後の事業一覧もつける予定でしょうか。

【事務局（中田政策企画部長）】

はい。

【寺澤委員】

総合戦略を見ていて、一番後ろのページまでめくるとなると、なかなか対比しにくいので、例えば、第2部のうち、「札幌市産業の競争力強化【分野別】」の中に関連する事業を点線で囲んだりして並べたほうがわかりやすいかと思います。

それが難しいのであれば、「札幌市産業の競争力強化【分野別】」と書いてある横に資料編の何ページから何ページを参照とすれば、ぱっとめくられて、ああ、こういうふうになっているのだなとわかり、理解を助けるのではないかと思います。

これはつくり方の話ですけれども、見ていて、そう思いました。

最後に、61ページの「プラン推進に当たって」の「北海道・市町村との連携」とあるところについてです。

「北海道や道内市町村と問題意識を共有し、連携して取り組んでいきます」とありますけれども、押し並べて、道内全体の均衡ある発展を考える立場からこのように書いたのかもしれませんが、この計画は札幌市の未来創生についてですし、何といたっても、札幌圏がどうなるかによって今後の北海道がどうなっていくかという大きな鍵を握るという意味を当然持っていると思うのです。

そこで、「札幌圏を初め、道内市町村との連携」あるいは、もっと強く言うなら、

「道内市町村との連携、とりわけ、札幌圏の各自治体と連携し」として、札幌市によりひき付けて考えるという問題意識を出したほうがいいのではないかと思います。

次に、「北海道全体の発展が、札幌の発展につながるという考え方の下、道内市町村と連携して」とあります。

これは確かにそうかもしれませんし、ひょっとしたら北海道への遠慮があるのかもしれませんがけれども、北海道全体の発展が札幌の発展にもつながるという表現で書くと、何となく受け身の印象が拭えないのです。

これについては、先ほど申しましたように、札幌市あるいは周辺を含む札幌圏が牽引者となってやるという意気込みをこの表現の中で強くにじませたほうが札幌圏をよりひき付けたアピールになるのではないかと思います。

【内田座長】

どうもありがとうございました。

それでは、原委員、お願いいたします。

【原委員】

私からは、まず、人口の目標についてです。

先日も北海道のプランについて新聞でコメントを求められて、出生率1.8が可能なかを聞かれて、無理ではないと思いますと答えたら、何だか楽勝だというような雰囲気伝わってしまったので、ここで訂正をしておきたいと思います。

これは札幌市もそうですが、不可能ではないということなのです。ですから、こんなものはやったって絶対に無駄だと思ってしまったら、それでおしまいだと思います。

理論的に不可能だという証明は、学問的にはできません。だから、やってみないとわからないということです。目標設定の根拠は非常に薄弱で、子ども希望数という不確かなものです。

個々人の気持ちとしては平均で1.8人ぐらい、それぐらい産みたいと思っているわけです。ですから、その希望を実現させるために何ができるという発想でプランをつくるべきだと思うのです。

同様に、札幌市の目標も、当面、希望子ども数の1.5人の実現に抑えたことは正しいと思います。もともとの国の計画もそうですが、望んでいない人に子どもを無理やり産ませるといった話ではないからです。

希望が実現するのであればさせてあげようということです。産みたい人が産めるような、希望を現実につなごうということなのです。そういう意味で言うと、札幌市の場合は遺憾ながら希望子ども数は1.5人しかない（という調査結果）わけですので、それをとりあえずの目標にするということになります。

そして、政府も札幌市も同じでしょうが、これをきっかけに、希望子ども数がだ

んだん上がっていき、人口置換水準の2.08に近づけていこうというのが、今回の地方創生のそもそもの意図ですから、その視点に立てば間違っていないと思います。

また、そういう希望的な話だけではなく、移動のパターンを変えることができれば、札幌市でも、目標の実現は、絶対に不可能という訳ではないと思います。

これは北海道全体も同じですが、本州に出ていかないと夢が持てないという状況を変えるような、ドラスティックな施策を打てば変わってくるわけです。

そうすると、同じ20歳から25歳の人たちでも、札幌で結婚して子どもを産もうという意欲を持った人たちが残るわけで、合計特殊出生率も大きく上がる可能性があるのです。

そういった効果を期待していいと思うので、プランとしては悪くないと思います。逆に、心配なのは、純移動数をゼロに持っていくという目標の方です。

これは、一時的ではなくコンスタントに純移動数をゼロにする必要があります。

特に札幌市の場合、本州との関係では、ほとんど純移動はマイナスになっているわけですが、瞬間風速的にだったら、景気が悪くなるとほぼゼロに近づくという傾向があり、この点は北海道も札幌も同じだと思います。しかし、そうではなくて、景気の良いときにもゼロになるように持っていかなければいけないということを肝に銘じなければいけないと思います。

特に、これから景気が良くなっていくと思いますので、なおさらのこと、ここでせっかく流出が止まってきているものがまた大きくなっていく危険性があります。

ですから、出だしのところで強くアピールするような施策を打つことで、出鼻を挫くといいますか、何とかする必要があると思います。

問題はアピールです。

今回の最終案は前回のときよりも大分クリアになってきたと思うのですが、一般の方の認識はまだ全然ないと思います。

特に札幌市の場合、総合計画との絡みで幾つもの計画が動いている状態で、このプランが出てきておりますので、市民は全然理解していないと思います。

私自身も先日発表された中期実施計画と、このプランが頭の中でごちゃごちゃになっておりますので、基本目標や未来創生アクションをクリアに打ち出す必要があると思います。

また、最初に触れましたが、札幌市の希望子ども数が1.5になっているということは、若い人たちが諦めてしまっているというか、結婚や出産、子育てを具体的なこととして想像できなくなっているという状況があるのだと思います。

特に大学生を教育して思いますのは、自分たちのこととして結婚や子育てをイメージできていない点です。就職さえイメージできない学生が多いわけですから、そういう彼らの意識を変えるようなインパクトを与えるためには、何かものすごく新しいことが始まろうとしているのだということをアピールする、たとえばワークショップをやるなりしなければいけないと思います。

これは、大学も反省しなければいけないのですが、札幌市内にはせっかくたくさ

んの大学がありますから、大学でも結婚や出産、子育てを、教育上のテーマとして、取り上げることをやったら良いと思います。

【内田座長】

どうもありがとうございました。

それでは、平野委員、お願いいたします。

【平野委員】

札幌地区連合の平野です。

安定した雇用、それから経済の好循環を求めていくというような書きっぷりには、大変ありがたいと思っております。

ただ、堰八委員がおっしゃったとおり、どちらが先なのだという事なのだろうと思います。

そこで、どこから始めるのかということより、今何をしなければならないかですが、人口減少をいかに食い止めていくのかが喫緊の課題だと思います。

札幌市の状況として、未婚率が高い、非正規雇用や結婚後の生活維持の資金がないなどにより、未婚化、晩婚化が進み、結果的には少子化となっているということでした。

そして、これが生産年齢人口の減少につながっていき、最後に社会保障制度の崩壊へつながっていくということです。これは基本的に国の問題であります。そういう状況について、札幌市として人口減少をどの程度穏やかにしていくのかということが課題なのだろうと思っております。

その中で今求められていることについてですが、未来創生プラン（案）の43ページに「安心して働ける環境づくり」という項目を作っていただき、その中に「正社員就職の促進」がありまして、ここが一つのキーポイントになると思います。

これが拡大していけば、例えば、介護や福祉の分野で求められている人材、ハローワークに言わせれば、有効求人倍率も非常に高いのだそうです。

それはなぜかということ、離職率がそれ以上に高いからだそうです。このような状況がずっと言われているのが現実です。

そういったことも含めて、待遇改善などを図っていくことによって安定した雇用が生まれ、結婚できる状況ができてくると思うのです。また、そういう体制になることによって、一般の労働者の方も安心して子どもを預けて働けると思うので、そういう循環を作っていくことが重要なのだろうと思います。

また、皆さんもいろいろと言われておりましたが、私からもお願いがあります。

重要業績評価指標ということで、44ページに「医療・福祉の従業者数」を増員すると書いているのですけれども、前回、前々回の会議でも言わせていただきましたとおり、平成24年就業構造基本調査の結果によると、札幌市における非正規雇用率

が42%です。

これは、今後の統計調査の結果で変わってくると思いますけれども、女性に至っては60%を超えているのです。この非正規雇用率を変える目標をこの表の中に入れていただければと思います。

例えば非正規雇用率を3%下げるなど、そういうことをやっていき、行政として企業に対する助成などもあわせてやっていけば、お互いにウイン・ウインの関係になるのだと思いますので、そういうことについても整理、検討をお願いしたいと思っております。

【内田座長】

どうもありがとうございました。

それでは、小林副座長、お願いいたします。

【小林副座長】

皆さんのお話を伺って、あるいは、これまでの議論をお聞きして、それから、札幌市の状態を見ながら思ったこととお話しします。

一つは、最後のほうのページに書いてあるような一覧表ですが、冒頭で整理されているように、札幌市のまちづくり戦略ビジョンという長期総合計画で、平成34年までの10年間の大きな方向性を出しています。

一方、地方創生と連携した札幌市バージョンの未来創生プランでは、人口については長期で予測していますけれども、戦略としては5年なのです。しかし、5年でできることとできないことが当然あります。

今ご説明いただいたアクションは、札幌の未来創生に向けての第1次バージョンだと理解しているのです。

皆さんも十分にご承知だと思いますけれども、2030年に新幹線が札幌駅まで延伸されます。そうすると、仮にこれを第1次とし、その次を第2次、第3次とすると、3回ありますが、そういうふう成長させていく可能性を持った議論と目標を共有しているのです。

ですから、これについて、若い方も含めて、なるべく多くの市民と共有したいという位置づけのものだと思うのです。

当面、アクションプランで考えられているものについては、市長政策室としてかなり踏み込んで、各部局の5年の計画を横につなぎながら、札幌の魅力、あるいは、要するに、今住んでいらっしゃる方のこれからの5年、あるいは、10年住み続けたというときの5年間の魅力をより高めていきたいという内容のものだと思います。

また、長期的に札幌市の質や魅力を高めていくので、今札幌市に住んでいないけれども、札幌市に住みたい、あるいは、起業したいという方に対してエールを送る位置づけのものだと思います。

ですから、2次、3次に展開していくような議論を庁内、市民、ほかの市町村や

道と連携しながらやっていただきたいと思います。

第1次の際はこの内容でいいと思うのですが、第2次の際にぜひ期待したいのは、まちづくり総合戦略ビジョンで大事なコンセプトとしてイノベーションということを行っているわけです。

今、総務省でもそういう議論をし始めているのですが、イノベーションには2種類あるのです。

日本は科学技術立国なので、物をつくるイノベーションをずっと考えてしまいます。

しかし、システムや価値をイノベーションするということもあるのです。先ほど杉岡委員がおっしゃったこともそれを含むのだと思います。そういうソーシャルイノベーションあるいはシステムイノベーションも大事です。

そういうことと絡めて言うと、イノベーションということをキーワードにしながら総務省の中で少し議論し始めているのは、イノベーションディストリクトということなんです。

イノベーションディストリクトというのは、別に、工場をたくさんつくりましょう、研究所をたくさんつくりましょうということではなく、知的情報、モチベーション、異分野の人、特に若い世代の人たちが出会って、新しい経済投資あるいは起業につながっていくような場面をつくりたいということで、幾つかが日本でチャレンジされているのです。

こういうイノベーションディストリクトについて、別に一つでなくても構わないので、札幌市の中で幾つか想定し、次の2次の未来創生プランのアクションにつなげていってほしいと思います。

イノベーションについて身近な例を言うと、札幌の姉妹都市にポートランドがあるのですが、1972年か1973年の状態から今を比較すると、様変わりしているのです。

1972年は札幌が冬季オリンピックをやった年ですが、そのころ、ポートランドはアメリカで一番おくれた田舎のまちだという評価だったのです。

しかし、今、アメリカで若い人たちが起業したり集まったりする魅力のあるまちになっているのです。ニューヨークやロサンゼルス抜いて、ポートランドがトップです。

それは、要するに、今までの考え方、つまり、アメリカの東のほうで考えられてきたような起業して、エスタブリッシュして、大きなお金が入るといものはまた違い、自分の生活をより豊かにして、エンジョイして、自然と親しみながら人間らしい生活ができ、しかも、大きな会社をつくるのではなく、自分の家族や友人何人かで価値を高めていく起業ができるような状態に30年かけて行ったのです。

それは、社会変化として、マイクロファイナンスやクラウドファンディングなども含めながらできるような状態にしたのです。

これからは必ずしも札幌の人口が長期的に伸びていくわけではありません。

そうすると、日本の政令市の中でもこれだけ自然環境がある、あるいは、顕在的に存在している食の魅力等があり、観光の価値もたくさん持っているのですから、若い人たちが起業しやすいような意味合いも含めて、あるいは、起業に対して投資をするような小さなマーケットを確立するようなイノベーションディストリクトについて、全国やアジアで見るとすれば、札幌は非常に可能性を持っていると思うので、次に向かって歩む第一歩だと理解しております。

もう一つは、先ほどKPIの話が出ましたが、単に何年にこういう目標を達成しますということではなく、都市経営的なインデックスを入れながら都市を運営していこうという姿勢に変えつつあるということも評価したいと思います。

今まで3回という非常に短い時間の中でしか議論を深められなかったのですけれども、次のステップへ移行していく第1段階として評価したいと思います。

【内田座長】

ありがとうございました。

最後なので、今までとは違って、上品にしゃべりたいと思います。

印象として、前々回、前回、今回もそうですけれども、ご発言内容は人口問題が主だったのです。ただ今回は、堰八委員と寺澤委員のお2人が経済について言及されました。

私は、札幌市のことについて若いときから参加させて頂いてきましたが、10年ぐらい前までから経済問題がメインでした。

ところが、今回は人口問題です。それはそうでしょう、人口が減っているのだからと言うのですけれども、食っていなければ人口はふえません。どんな組織であろうが、どんな地域であろうが、食っていけるか、食っていけないかが一番のポイントなのです。

ですから、経済問題をきちんと据えた上で議論をしていかないとなりません。お見合いをさせるだけでは絶対に結婚しません。つまり、そこに結婚ができるだけの精神的余裕と資金があるかです。それは大きな資金である必要はありませんけれども、自分たちで生活していける見通しがたって初めて結婚するのです。

つまり純粋に恋愛だけで結婚するものではなく、どんな人でもその先のことを読んで、2人で生きていけるかを考えるわけです。生きているというのは生活していけるということで、ベースにこうした経済の問題をきちんと押さえておかないと、上辺だけのサービスになって、無駄な税金の使い方になると思います。

したがって、経済力をどうするかは常に頭に入れておいてほしいと思います。

その上で、今回のプランについてです。

そのことを述べた上で、このプランのいいところは最後の概要のところです。ほとんどの人は触れなかったのですけれども、まとめてある資料1-(4)です。

総合戦略編の中に今回のプランを作った人たちの考え方が実に明快にあらわれています。

何か普通のことが書いてあるように見えるのですけれども、よく読んでみると、グローバルな環境のもとで世界から注目を集めるような札幌市を目指すことをベースに置いた上で、安心子育て、若者の希望実現、札幌市民の成長として、これらにそれぞれに対応した人材育成に取り組んでいこうと明言しているのです。

つまり、これからの「札幌の市民」を育てていこうという意識がものすごくはつきり出ているのです。

私の長い間の札幌市のプランの検討の中で、経済の話はいっぱいありましたけれども、人を育てようという意思がこんなはつきり出たことはありませんでした。

先ほども言いましたように、今回は経済の話が出ていないのは不満ですけれども、札幌で人をどういうふうに育てていくか、それが明言されていることはすごく良いと思っています。

今回、改めて新しい環境に向けて、札幌のまち、札幌市民を大きく育てていこうという意思表示、つまり、札幌市民が育つと同時に札幌が育っていくのだということが根底にあるのはすごく良いプランだと思っています。

ただ、これは基本的な概念であって、個別にどうしていくはこれからの施策の問題ですけれども、今までになかったベースだと思っていますので、それを大切に基盤として持った上でやっていただければと思っています。

あとは、具体的なところでどういうふうにやっていくかは市側の話になりますが、結局、札幌市民がどういう市民であるかということです。

つまり、市民が育っていくプロセスみたいなものをはっきり明示しながら施策を行っていくことが大事だろうと思います。

最終的には、組織にしてもまちにしても、つくり上げていくのは人ですから、そこを大切にしていいただければと思います。

それが意図されているかどうかはわかりませんが、最後にきちんと書かれているのです。ただ、そういうふうに取り捨することは難しいかと思っています。

考えておられると思うのですけれども、それを結びつけながら考えることはこれからだと思っていますので、そういうことをやっていただければと思います。

座長ですから、最後はまとめ、批判は一切しないようにいたしましたので、こういう話になりました。

よろしく願いいたします。

まだ少し時間がありますけれども、補足はございませんでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

【内田座長】

それでは、ご質問がないようですし、そろそろお時間となりましたので、議事は終了したいと思います。

4. 閉会

【内田座長】

冒頭にお伝えいたしましたとおり、3回にわたって開催しましたさっぽろ未来創生プラン策定検討有識者会議も本日で終了であります。

事務局の岸市長政策室長から挨拶があります。

【事務局（岸市長政策室長）】

札幌市市長政策室長の岸でございます。

委員の皆様におかれましては、ご多用の中、7月23日の第1回から本日まで、3回にわたり、阿部委員と木村委員は2回目からとなりましたけれども、大変貴重なご意見を多数いただきまして、ありがとうございました。

毎回、大変ご示唆に富むご意見がありまして、私もお聞きしていて、非常に刺激を受けました。ありがとうございました。

本日いただきました皆様のご意見を反映しながら、1月末のプランの策定に向けて、鋭意作業を進めてまいりたいと考えております。

策定のための有識者会議は本日をもって終了させていただきますけれども、札幌市におけます人口減少を緩和させる取組は、このプランの策定をもってスタートを切ることになりますので、プラン策定後はプランの進捗状況をきちんと検証しながら取組を推進していきたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、このプランの推進に当たっても引き続きご協力をいただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

その願いを申し上げまして、私のご挨拶にさせていただきます。

本日は、お忙しいところ、本当にありがとうございました。

【内田座長】

それでは、以上で終わります。

どうもありがとうございました。

※ この内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しや誤りがあったものなどを整理した上で作成しています。

(作成：札幌市市長政策室政策企画部企画課)